

第 29 回議会報告会 報告書

地 域 名	高柳地域		
年 月 日	令和 8 年 4 月 20 日 (月)	会 場 名	高柳ふれあい倶楽部
開始時間	19 時 30 分	終了時間	21 時 00 分
参 加 数	男性 9 人	女性 0 人	合計 9 人
班 長	浄慶耕造	司 会 者	浄慶耕造
報 告 者	深澤 巧、川瀬 稔、塚本正彦	書 記	浄慶耕造
班 員 名	浄慶耕造、深澤 巧、川瀬 稔、塚本正彦		
	市 民	対 応	
報 告 に 対 す る 質 疑	<p>① 基金の取り崩しは合併年度(平成16年)に次ぐ規模で28億円となっている。収入が減少しているのか、それとも特別な事業のために基金をたくさん取り崩さなければならないのか。</p> <p>② 新しい医療機器の導入など八鹿病院には大きな金を使っているが、今後どんな支援を行っていくのか。高額のPET-CTをもっともっと活用して収益を上げるべきだ。</p> <p>③ 人件費の高騰も経営を圧迫している。職員もしっかり自覚を持ってもらいたい。</p>	<p>① 八鹿病院組合には、令和8年度に8.2億円の貸付を行う。関宮小さな拠点事業と重なり際立った金額になった。令和9年にも八鹿病院には構成市町で4億円の貸付を行うので財政調整基金を崩すことになる。基金の大幅な取り崩しは、今年度予算の大きな特徴だ。</p> <p>② 物価高の中で診療報酬(公定価格)が上がりずどこの病院も経営が苦しい。そんなに経営が苦しいなら豊岡病院と八鹿病院をひとつにしたら、という意見も聞くが、地元で総合病院は必要だと思っている。八鹿病院の強みを発揮した姿が必要だ。市が支援をして時間の余裕を作って経営改善に取り組んでもらうしかない。大きな医療変革も必要だし、「地域医療を守れ」という市民の動きも大切だ。病院議会の内輪だけの議論では済まない。病院長も管理者も市民の前に出て一緒に考えるような取組が必要だ。</p> <p>③ 人件費の急激な削減は難しい。3年間の短期的支援で改善はできず、市は10~15年の財政計画に組み込み、腹を据えた支援をやるべきだ。</p>	

市 民	対 応
<p>④ 大きな金を貸したかという話でなくて、当直の医師のベッドを快適なものにするとか、地元のおいしい食材で給食を作るとか、医師が赴任しやすい環境を作ることも議員には考えてほしい。</p> <p>⑤ 八鹿病院も市の財政から一時金で大きな金を入れてもらうのであれば、もっと市民への丁寧な説明が必要だ。議会も「議会だより」のページを増やして、病院議会と南但広域議会の詳しい報告をすべきだ。</p>	<p>④ ご意見は参考にする。</p> <p>⑤ 病院の広報については同感であるし、議会広報については議会広報特別委員会で検討する。</p>
<p>① バス通学は距離によって決まっているが、畑ケ中の農道を背丈ほどある草が伸びた中で少数の女の子が下校している。周りからは見えない。事故があつてからでは遅い。バスに乗せてもらえないか。</p> <p>② 今年から「養父市の組織と仕事」には副主幹以上の職員しか名前がない。窓口に行けば配置図はある。なぜこのような対応になったのか。</p> <p>③ 助成金や補助金は何かしらの政策誘導するためにあると思うが、すでに補助がなくても定着している事業がある。その財源は他の必要なところに回すことができる。考えるべきではないか。</p>	<p>① 子どもを歩かせる、道草の体験も意味がある。一方で子どもへの事件もあり、通学時の安全を確保する必要がある。距離で紋切型に決めるのではなく、小さな車を走らせるとか柔軟な対応が必要だ。舞鶴市ではスクールバスの代わりにタクシーを使っている例もあり対応の違いを感じた。</p> <p>② 市民の皆様にはまず市役所の組織を知っていただくこと。その上で最近問題になってきた職員へのカスタマーハラスメントに対する人権的配慮だと理解している。</p> <p>③ 20数年後には人口1万3,000人を想定する財源に限りのあるまちで、市民意識も変わっていかねばならない。それが新しい行革の課題だと思う。助成金も精査すれば、財源不足の中で埋もれている活動に光を当てることができる。</p>

意見交換会での質疑

市 民		対 応
意見交換会での質疑	④ 養父市は新しいことをしすぎている。結果、中途半端でひとつひとつの目的を達成していない。例えばメタバース。「バーチャルやぶ」に入っても誰もいない。職員は忙しくてバーチャル空間に付き合えない、と言う。自動運転もそうだ。そのくせイヌワシ駅伝をやめたり、ミズバショウ公園の補修がされなかったり、ちぐはぐな感じがする。	④ イヌワシ駅伝で陸上に関心を持った子ども話をされたが、好きなことを続けられる環境を作っておくことは大事だと思う。日本西南限の生息地であるミズバショウ公園は、自然界の保全でも大切なところだ。文化的価値が低く見られがちなところがある。
その他（提言など）	① 3月13日に「菌で元気な土づくり講座」が行われたが、これまで保田先生に教えてきた有機農業の考えと違う。一貫性がない。本当ならば引き続き保田先生とか、西村いつき先生に講演を頼むべきだと思う。 ② 年度末で2人の図書館司書が辞めた。市の図書館は働きにくいのではないか。公民館が一緒のため、公民館事業もやらざるを得ない。司書が専門知識を発揮できる環境にない気がする。 ③ 2050年人口13,000人も「下駄」をはいている。実人口と乖離が進む可能性がある。4年間を任期とする政治をする者として、人口と施策の関係をどう考えるか。	① お話をお聞きして、今後保田先生の指導についても学んでみたい。 ② お話は承った。 ③ 13,000人のまちとはどんなまちなのかをリアリティをもって考える必要がある。それを描けば逆算して政策を策定できる。病院や学校のあり方にしても未来へのプログラムを作ることが必要で、本当の意味での「まちづくり計画」だと思う。もう一つは移住政策の実行である。養父市に来たら、災害にあっても企業が存続できる、養父市に行けば就農が簡単である。こんな仕組みを作って、各地に「営業」すべきだと思う。
備考 なし		

議会報告会を実施したので、上記のとおり報告いたします。

令和8年5月15日

報告者 3班 班長 浄慶 耕造